

教育再生実行会議第四次提言を踏まえた達成度テスト（仮称）の検討にあたっての主な論点

| | 基礎レベル (高等学校教育部会を中心に検討) | 発展レベル (高大接続特別部会を中心に検討) |
|---------------------|---|--|
| 目的、活用 方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校教育の質の確保・向上に向けたテストのあり方 ・ 「高校教育における基礎的・共通的な学習の達成度の把握」と「指導改善への活用」との関係。また、例えば、推薦・AO入試の場面など対外的な場面における自らの学力の証明への活用との関係 <p>・ 高等学校教育の質の確保・向上を図るため、高等学校の基礎的・共通的な学習の達成度を客観的に把握し、各学校における指導改善や生徒の学習意欲の喚起、学習改善に活用</p> <p>※ 「達成度テスト(基礎レベル)」(仮称)は高校の単位及び卒業の認定や大学入学資格のための条件とはしない</p> <p>※ 民間の検定や各種試験との相互補完により、生徒の学習習慣の定着を図る方法も模索</p> <p>※ 推薦・AO入試における基礎学力の判定に際して活用も可能とし、各大学の判断による活用を促進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 多面的・総合的に評価・判定する大学入学者選抜への転換を促進する観点からのテストのあり方 ・ 「高等学校教育の達成度の判定」と「大学教育に必要な能力の判定」との関係 ・ 達成度テストの成績と他の評価手段との組み合わせ方法 ・ 各大学のアドミッションポリシーに基づく柔軟な活用のための仕組み ・ 趣旨・目的、活用方法等を踏まえた成績の提供方式 <p>・ 大学教育を受けるために必要な能力の判定のための新たな試験(達成度テスト(発展レベル)(仮称))を導入。</p> <p>・ 各大学が求める学力水準の達成度の判定には、各大学のアドミッションポリシーに基づき、達成度テスト(発展レベル)(仮称)の積極的な活用が図られるようにする。その際、利用する教科・科目やその重点の置き方を柔軟にするなど弾力的な活用を促す。</p> <p>・ 達成度テスト(発展レベル)(仮称)は、その結果をレベルに応じて段階別に示すことや、各大学において多面的な入学者選抜を実施する際の基礎資格として利用することなど、知識偏重の1点刻みの選抜から脱却できるよう利用の仕方を工夫する。</p> |
| 対象者 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者の範囲(全国の高等学校・高校生を対象とした希望参加の是非や、大学進学を希望していない一般の者も対象とするか、など) <p>・ できるだけ多くの生徒が受験</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般入試受験生以外の対象者の範囲 <p>・ 国は、大学教育を受けるために必要な能力の判定のための新たな試験(達成度テスト(発展レベル)(仮称))を導入し、各大学の判断で利用可能とする。</p> |
| 実施方法 (試験内容、試験形態) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生として共通に求められる基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等に関する学習到達度を把握するための試験内容(教科型、総合型) ・ 試験の難易度 ・ 出題方式(マークシート、記述、CBT) <p>・ 高校教育課程における基礎的・共通的な教科・科目で、知識・技能の活用力・思考力・判断力・表現力なども含めた幅広い学力を把握・検証できるものとする</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 趣旨・目的、達成度テスト(基礎レベル)(仮称)との関係等を踏まえた出題教科・科目数、出題範囲、出題方式(マークシート、記述、CBT)、出題内容(教科型、総合型)等 ・ 各種資格・検定試験による代替方策等 <p>・ 将来的には、試験問題データを集積しCBT方式で実施することや、言語運用能力、数理論理力・分析力、問題解決能力等を測る問題の開発も検討する。</p> <p>・ 外国語、職業分野等の外部検定試験の活用を検討する。</p> |
| 受験回数、実施時期、実施場所 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 趣旨・目的、活用方法等を踏まえた実施回数、実施時期 <p>・ 高校在学中に複数回受験できる仕組みとすることを検討</p> <p>※ 実施時期、実施場所については今後の検討課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 趣旨・目的、活用方法等を踏まえた実施回数、実施時期 <p>・ 高等学校教育への影響等を考慮しつつ、試験として課す教科・科目を勘案し、複数回挑戦を可能とすることや、外国語、職業分野等の外部検定試験の活用を検討する。</p> |